貴 12
881
20

薄雲

巻の名は事 故宋 ものとりて名やせりと但詞のもとに

うもくの紙の紙色なる紙とあり詞を見て名

やせりとも云へり或は八日乃はみのよりそれひ

色薄雲云は地の上紙なるやうなる源氏世界乃を

うりと世一歳乃秋まそのうすあるを

そにありのゆくまくに川つくのもの風あいとく心はそさまを

りてうとれを面をあ新ちのこしはくはつくとと

宋 大井乃里れ乃るもうの乃をたる心ちの乃を 仏宋 明石乃

うちとうれ是部ふそいまとうり紙をあ明石乃ふく

物ものへ

もとに花かくてをそんもく乃

もくさをし宋 源氏をとのやうふくハ

かりそめにもあはれをしらぬ人は也　宗　二条院讃岐

俊のうた

ながらへはあはれをしらぬ人ぞなほ　於宗　後撰十一ノ末

めをかしかるべき物なりかの心ばへ

をもしらんにたりぬべきものなりけり

ぬれぎぬをかりそめにだにきるものを　於宗　拾遺十ノ末

宮ノ人の物がたりにかたりなれば女

細　式部丞ふかくうらみてとうらみてとつくるなり

ものうらめしくとも的の石上の心を二条院のようにてもとる

同じ所のうれしくはしらるるなり

のうらもなくうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末

うらもなくとも

ひとりぬるとしらるやうにおもはるるなり

拾　拾遺十ノ末　後さくらにつけてうの御紙をもくるくるとあ

ちこちのうの紙をもくるくるとあ　宗　的の石上の

ものうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末　源氏の給詞也

ものうらめしくとも　於的の石

ものうらもなくとも　源氏の合ちかくて当ちがとゆ

ものうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末　ゆくすゑの紙をうらんあるべきをて

ものうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末　ものうらもなくとをは宗上よりんをもしんちと

ものうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末　ものの給へたる極ていうとの給ふるなり

ものうらもなくとも　於宗　拾遺十ノ末　一勅三条河原院　但也宗上例

又句海也　花山院九条　稜　勅思百姫　公

稜　石姫　の　也　女人の勅使なるの也

人をもねたくなるべしとおもはれんとも

とみくの震　宗　大井れ宮

ものやうにかくしひ給　源氏大井にてうちとかをみて

ばんこうの
さはりもちゐんやとかりにわらうちとりもれん　於宗　明石上のん
ぞくうるとのかうまうことをとしとそひあうをあうとやそ
まとをうちうとと　細　明石上の母　第上の書
しらへうたうや
いとゝ腹はらまれかうまうをめてやんをとうたうしをすてあさ
まうとと　宗　姫君と　第上　うたうんとの事や
人のりうとうたうひうのかうくふや　於　あうをめてをうたうく
りてをり　殺生　殺生　殺生　人のりうとうう
むとをりうたうしとの如や　細　第上の作るにたうをと
をまとのやうをあうをしてハんをやまうをとや
はうたうひうたうくはさまんとて　於宗　明石上はうたうハかは
うれうりまをそれをまうたうたうをうきとのことを

はうたうひうたうとのうり　細　源の作りやお
をあうたうかうたうをうとうりあれと　細　源の作りやお
まひうたうのへうきやをとのをたうたうをうたうし作りや
うたうやをうたうぬうたうやうとをうたうをうひうたうそ　宗　源氏
乃中納言心をうたうとハやうひうたうをとや　細　をせん　絶母
をとのうたうをハやうひうたうをうやを源氏の作りや
うたうハ年ハのれとうたうたうたうたうしくはうはゆうまう
に　於宗　をとをれうたうにをはうたうをれうたうをとの作りうり第上ハ
をうたうをうたうとハ姫君の作るうたうとや
家系宮れ中とうをはり作りとうたうをとうたうをあうたうたうひ
をうあれハまうてかうをうたうをうあうたうをとうたうをうあ
人をうをハまうたうをとうたうたうたうたうたうたうたうたうや
をうとをかうたうたうたうたうたうたうたうた

業也業とは因縁なるべし業のうちに結ぶべき
さとの如也 細 業とは生死の因に成宮と参るべきやうに
生死の因也只今なるものの作るべし 結ぶ也
前の如くに作るべきまり給へさにくとう
てみとは世の中にし法人の為なりなるべ
ろきの法とくせみとあるべし人の作るべ 於宗 明石上
人也源氏の御事をみて人やうに人作るべきまると作るべ
俗みと宗に源氏法人の名ばかりなれとなるべ
ひうるべくとうとうしまるべきなるやうに法人の志
けまうと作て業とは此なる数とくせるべし法
事とも 細 明石上乃人也源乃法人をなるべしれ人ように人
ひとりとに人をとあ結ぶまるべく宗及俗のやうに宗上二
人とあ結ぶべきなるべし人みるをゆるべきなる也

さらに法中にをとれ行べるにそなを思やるべきて数あり
ぬ人乃あるべひ宗乃人さ宗法みとあるべぬとにりふをちか
てんとめさまるべやにれるべとやあるべんあ方ばてとく
あるもやれるべとあひさとに紙さ人の作る人をつみて
於宗業上の法乃積あるまるべの思人れ中に作るべちをとく
まて結べとれりひやるべ結ぶ石上れ幼也数あるべぬ人のとは
面は世上の人也下四をぬ石上乃りあるべとの立あるべ也人
さることみるもあるべねんあるは立出るべこと業上るべとめさ
まるべとやあ法さんとあ也 細 明石上 早下也
これ法四よりあ人さるべそなめれ れ明石姫君人とに聞く
に業の法俗よあるべて人付まるべさとの明石上れ幼也
さるとやとあるべるべ さあるあるべるべとの親也
を人るべるべるべふんるべれ行るべやゆるべりやまるべやそなるべと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるてらこそいつられ行しまちめんこそあるひめれ
於宗故大納言とハ相国乃文哀れ文也今一さ片こあり
をとりとるとハ后よりあり行りて文哀服ちるゆゆしく歌を
みを成給りてうくんいつくしきよつ人行との也
まりてうくんちあひ乃ゆゆしくあへさことみとあしくみこうち
大后乃ゆゆしくこそいつと 宗 助石上のちこと乃也
れさしむひあり和とるとれ行みそんを行もひやしゆや
乃法りてちりをえひとりしくしぬ物あり 於宗 乃しむひ
とハ本臺乃服や和とるとれ和とハ別服のるりやそれ服に
みちりと出来りあれとと世上れ人乃ゆひやしれ物とも
歌を本臺のやうに色物をあとも
まりてこれとやんちりるれ行うさくしたうくんいそ物行て
ちうれくまれ行ちん 於宗 ちうとれ行ちりと出来りくしん

ひ宗ちんひまれ行ちんとも船宗れりと尼宗のいつり
ひとくしたつきておやみと一りてうつられあうくんいそやう
ておくしめうるあうくしやいるれ行うう海さ乃物とみうし
きんとはうしたとと 於宗 歌のうしはくるうそくんを物くし
めあ結ちれとも
うくしたうれりうくるみのうくんあしうるうを宗し行
てりてちりて宗て結うんありうさ海とと 宗 袴宗ちと大弁
みうくハうそんあるまりしさとも
宗結へとと 宗 ひ海結尼宗の物石上に義剖乃物也
ちうしさくんの心れうしうるりみと物とうを物とうとうみと
宗 物石上れんとうつり
引歌古くうんん
はしうしんりのとかれて行りひうれくんのうしそまれりけう
れりうと結ているれうくんしやのこんくうひうりしこうり

於宗相人のよそをおもはせたまふ御ありさま
んせとよせたまふ石上れやうの御ふみなども
あるとおもひしるしあるべし　源氏をおんれいとこそ
とハ御ものをたまふれもんとてわたしきこえ
たりんあるいとおもしろきあてをえの給へて　細殿石上れ
はりそんあるべきあしひ給へくはたらく御きこえ
の給へる也
清きよ御きこえのいとやうにとの給へる清みてうそうろの
るひとの死ぬるよきこえへ宮のこそへはきこえ
ぬるへきはしきこえ給へるとをちまいりてをいふへ
よやしまいりたる式　よろの乃ろう　於殿石上の御ものいとの
ひとの死ぬるふきこえへと御の乃果ケ下也家のことと
於殿石上のりをとの給へりんやをんこりりやうにいつるい思ひ

よりうりはるうまと源氏乃ろ給へる也　細　わるれのひるれより
そへること思へるる也又はうるとてとをれちてをいるる也
ひとあるそれより御ものを　宗　源氏の御ものを
白ものとをうるを給へる也ひやうにはるへきるるとの給へひと
きてさるを給　於殿石上と二条院へ御ものを給へ
るるるちゆきんるいはる式いとはるをまに御ものを
宗　御石上乃ものを
宗乃清きをあふうる給へきるる式てをとを給んを
宗　殿石上のことと御石上れやうのものを
めれとをとをるきりれるんをとはをれのまれるるさ
清きるをとをうるるるひるるるるるるるるるる
宗　殿石上乃めれとも御石上れんも
いとをうるきるれるるとをへんるるとをへんるるを御ものを乃れ

[illegible]

てらの紙つり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきのうちとうたたちこひさく　宗祇石上乃さはや
ゆきのうちとうたたちこひさく　宗祇石上乃さはや
ゆきのうちとうたたちこひさく　宗祇石上乃さはや

細やさきなんとハたちさめていたしうひるるへさとも
人やとあるこれハ我心よりそあるめ　源氏ハ
さたてそあるめるれとも光とのゐ右上乃ふんこうとも
わうのあるこうきうろうきうるやいうひやとも
あるへきものとも
いうひやうこんとうあてやも　のゐ右上ハ姫ゑんのうとうあて
いやとの給へ源氏とさのこうのうれもあんこうとも
あちさうとおのれと　源氏と遺養（イヨウ）せんうとこうとも
うあくしうやううりやせめてこうひうあたいとうけうとも
みく　細今ちうちうへうあて一事も板ちるへきとも
まへよあるうあ我人給よ　源氏のほうあ（ゴゼン）姫ゑんれあ給板也
わううみそこうるとあるへのをくせうれとはりうた
細　ゐ紙さうとれへあるくハあうるうとも　のゐ右乃ううろひる

とうとうあるこのあうんうあるうとをるとも
ゑんきうるとわうるとはうこうあうそんのはとうてゆうく
とゆてうくはうつきまうれうあまるはとうるとうへはう
あうはわうるとやハはうこうのはうるるとも髪垂れんもたハ
そんとハさをはうまのやうにかうれまううにあるとうう
細　あうそんもさけ尾乃うこれはとも
うそれ物よこうひやんはとのんうやこうそうるとはようと
心うるうくうれも　源氏ハ右上のうとうあちはうんのはとと
源氏のあはしうやりうとも
うちるうれはあうん　まうゑ姫ゑんとうるとあくまうひはは
うくとも町くをるとくうはうこうひあう
しはうとも
あるみうのくうちわうさうれはあうこはうそにまてうる

殆くもゆる物うしろ髪ながくあくたちもるくをさとる義
なり姫君いとゆゑ物をもなくて車にのこんすとていそぎ
殆ようをたるをみる母君 細 明石上の詞也行末さうしくさこ
とみてそなたにまゐりさまも 於宗 姫君をわさ
しらをとつるとハ心得ぬ物也もとわりあれたちわるさ
まなるもてなしにまておさをなつかしや
みつくるさて出給へうめさとのこゝハいとうれし
うて 於宗 明石上ハ常をもとうちくもわるしるし
付をもしめれわるまことあひ殆とぬ義也
細 松風をみなとろもにいそ殆へうるとの殆へ時
乃さ毋みそうそれる不ハ物也
神とをとくへあのり殆へと記くもいかくうはなして
宗 母君をも車に乗給へとの姫君の御也

於宗 明石上ハ二条院松ひさわられりの本ゐ紀殆をみるへさ
立別まてくハ郡みくいえ入りの事紀かんとの心也
細 行末を祝しるる也
えをもひやしかりあるけさるとやあるをるとと
殆して 宗 されをそうやうにあるんと源氏のさひ
殆へとをとくへ明石上乃さ毋をとる也
殆へとをとくへ明石上乃さ毋をとる毋松のちる紀をん
殆ひそめ松をもつきれハ明石上ハ紫姓(ゼウ)ハ殆
於宗 源氏寄松をもかきをれいとは明石上ハ紫姓ハ殆
やのひさうやををとをを毋松とハ二本ある松也明石上
と姫君とをとをとをへるとんを殆をとをとを毋紀
らるんとも 細 松風乃さをを毋をとをとをとを
尼上ハひひとをとををををををの殆也

のそこにとどまるくさめ侍ふ　さのこに俺殺りてはなをや
てちるくさめ侍也
ちるものをいかにひさりもはとうちんをとゝ作り侍る
笑　さ新といつことのうちんともゆゑ石とうの也
めれとかはるとてはてやうちるくさめとかはるとてはてやうちるくさめ　笑　お将は新たはし
於二人乃ゑ也
はたらくあくうやうれ物とうとての風　河　男女二不限獨分
あり於笑　清熱也京のうもあるとは皇女乃はたらくと具
せくあく事は陽内つ陰ようとれるもはまうんとはた
うこれるも　尼児(エーカツ)やうも人形也　細　仕(ツカ)モ乃女房乃車也
人をまひよ　笑　出車也前のもとのくく
ようくさりくやうくはるとのきてはとうとにはうう
をみちはくう　笑　道の行乃清逆よまうる也

とまるとはるくくの心とるくさとふくふ　細　ゆゑ石とれとを
源乃ゑやとゑ也
はくやうくんをゆゑをとうくゆくくてはくるゆよ
をるくうとゑやうにゆゑくひうとうとるを　於笑　ゆゑ石とのくく
新くさとは源氏それつくとをとゆくんをゆゑを源氏も
姫ゑと相連(ヒ)ゆゑ也　細　色は皆源乃ゑくさをゆゑ石
とれ思くくや
乃中ひくるゆうちゆゑは　細　ゑくくしさゆのをとゆゑをくて
とくくのくくゆゑ
くくをれくてやまくくうんを思つれと　笑　をれしき心ゆや
西ゆてとをとにをくくを行てちいされはてくゆをとう
けくくゆゑくくの人ちを行てくめれとのはりひゆをくの
わくとゆくめをあくれるとゆをくをゆくくわえはみちゆく

初結よりいとなつかれてちかきをしるべ
宋 二条院のおもて成へ〜 細 もとうえやうにまつられる也
ちかきみくしけてさまの事うるとし給へとやうくかんめく
らしめ母君のかたぬとをもめてらうきに 宋 第二よ
てをのとをさらしてせらるやも
うちひそ給へいめれとめ〜ひそくさめまさ〜うゆ
ゑ給ふ 宋 かくさ〜にもさてちかけらも
山里乃はまくまてゆくみとあはれ〜ゆるそいとわ〜を
れとのをもはをさ侍ようつきはく乃給ハ 於源の大弁
乃宿よりやうと行幸也
はあひそる心ち〜給ふてん 宋 第二よ 紫姫君のお立給
ゑるとれ初也 細 対合ふてうも
ゆくみやへのこうへきさはるれるるとにてあへ

せてやうちはく〜はるさるまうを人くもとめてか
さうも〜給ふやうさんやもくはう〜さ心さ侍ちれハ
於宋 はれ〜をハ紫乃侍服みくあれ〜さたちれむ
みくあうんとの姫君よりくはるれ源氏のうも紫中れ
とやうにちれとも侍れよれぞさく服とうとのうも紫
よはう〜まさてさひみくをあ〜とのうとと氏
ゆうるとにいてはをては惜とも 細 源乃うも紫上の
御服ものうとうはもうまさ把とも
うをよいとよくつきもつひゆのし行へさんうはうれた
ものえうるとやはは〜ゆうと事ちくうれありうひ
もてあそひゆく行ひくめうもとのつくちうはう
さうるまてにゆう 紫上よりくつき給ふやも
又屋うとれ人のちあるそくゆう給ふちる侍さも

ほうもつ　さて上臈乳母とそうしやも
わさとおほしめしくく事はかをれとくさくとあり
細　かゝる経営をかんさるも不肖後上人はたゝひとはた
つゝひちとろさくくしさとひものことなれいそき
そのとろさそくくかあるるもとなれや
はたくくひとかあそひろちてはくくうんも
宗　姫君さまとはめてゐるも
ものうはつるまうとそとあをそれのをちめあをれて
あるうちにめしあくかりき　北宋　公々後上人のはさゆ
かに出入しはと姫君ふつきて寄るものみるを
猶ものさきつと経つと常みをそくとれくくる
をそあれうちに絶えるをそをそぬとも
そくく姫君のをそれ引ゆひはるるもひつきそうひくさ

そうひくくかくはつるはかはかをはさをひくきみも
北宋　若うるとは義経はかはかをはさ後ゝ千紀
ゆひをそうやをるやは　河　年　繼　日年紀　同　祥　多源頼　和名
和　若はかをさるれはふ神とはをひをそをれとつあとき
をそうも　河より引のをそうの皆　僻　事もあるは法をく
しをそう　弄　和秘　より　和秘　より　ものをそうをれよるあるは法とあり一部
云今世法者人激秘事やを
ものはをそうとあけさそへうを　細　ぬ石上元後悔をるも
北宋　家四より源氏より同人て姫君と上せたるうはやま
ものをも去あるうをれへくくしうぬあれゆへとの山も
さくそひくくを尼君をいとく激をるれとくくもてくつう
をを経とさくはうをるとあり　宋　尼君をぬ石上とは教
別くはへとを用をるやも　細　只うち打きさそてわさ

しきり給てすと家のいひしらされと後まろ故也
白ふ事をとうちくくとうちくくとひ申し給りん　宋げ家上ちとくハ中
くれ書給ハ大井ちるとハかんちるくんとの果て故也
をくはくるとうくくにめれとうまもちめてせよちるとあ
ひとこいうれてそをとうるとゆこと申給ち　宋大井ちるとこれ
くれるくハうくくとうるやも
物をとうくんといとく　宋大井へ源氏の法ちも　細源の也
姫君のまゝさぬゆくとうくさとも
されハとこうんはとれくれハとくれハとくちに出ひくやう
給へりいとくさひくさとまゝにあをくれのくつさくさを
内へちるれ出てはもちんとの　於姫君乃京へまゝく
をるゆくに源氏のうくく加給るハあんのとくくとのんも
ハくるくれたはつをとをくくちくはうに

宋源氏乃法ん也・
如来とをハ古とにをもゆくゆくを給をうけくくさんはとを
ゆるゆ出給給り　於宋上を姫君の影をとハ大井れ
ことを怪を給ん也
やくをとうぬくらうるうこに　於此時源氏世一家也
上ちるの出給を積ハいとくめて立くんくきあくくれあをう
はくをひは　宋源氏とは宋上との法ちをとを
さうるをはくをひ給めるくれ　細系賀也
おとちるくさはとのハ七日はくるひちるくを給　於宋ちく
をとちくるを羅漢也元日ちるを七日を年ちるをとを
日ちとにをくくをうを給ちや　元　正月七日のくくをひとくく
ゆを年始の礼乃ちるを也或ハ七日ちるとに年ちを給くくを
細ちとおとちくくさくくを七日ちるとにをうを給也

ひさつれ行つつ　宋　車乃事也

わつやれるハなるみとちくさちらうもとにうんてこそや

宋　わつさ屋上人也

はるさくれんとんのうちにを思こともやあくん　於宋やう

に可然御ちとみくハんを何ともあれとみもちち

ようもに月ひろ物とも也

うちくハはるとうにみゆつころちひあるとう　細　天下太平

の時分也ふくよとるちにみゆつ此ちひや南河の聖代とう

えハ也ひとちにたちにを思ハこれまつうあつまりさ

赤の陸ろにたちうもあるとさ屋ハこれまつうあつまりさ

ちうにさうつ物くうちくのもとうちとをきに

ハはるひつてうこ於宋　宋　花散里東院の西殿ハ住給つ

ちうにたちうハちうれくてのとうれるハいと屋のひうちとん

ハとちひうちうとちうとう行くとうにを思ハちとまりちとやう

にわうさとをのこ給つに　於宋　花散里ハそれほとよ紫上な

とのやうみてこ給つひとも程をにたにちくもうさ

ひ給とも大井ハ物ちうれとも陸うぬれとわつまし

さあとの下れ心ぬくく　細　ゆ石上ハほとをこそれかちうさ

ゆくよせひくくみをとうこ給つ也

さくはんさ屋のわひうにこめうさて　於宋　花散里れやうたん

宋ハ可然ゆくよ紫上みをちてとうこ給たくをまる

ほつとも宋えんのさ屋ハ上ろとくへちうへ

ものくうをのもくちりあり事ろ方にてあくめやをちちつあ

ちうこにまてうちやもくのとうにものくを行くもなりよう

のを心をうさてちをとも　於　先世の業と源氏をこひ給とも也ん

あのとうに源氏ちひ　細　めすやも

こちらもれはさこ海よりとこ風吹ちめちよあくこ仕まして有
除ふてあるつ雪の山つ八あくこねハ　於源氏の物語乃清
あ川ひとせ生こよおもこ仕花薄里とうこ行ふ也
わるもこと人ふうはうまつて　宗生ことおもく
人の必へあるとも
ふ面きいくこもこ里こ仕　於宗　東慮ふくこ乃ふ也山の面
湖ふ如へ一男也　幸一勅勘年ふそ仕院云不見一家
司なやあるそのこ乃ふ
中くこ云れこ乃ふ有ふ海ふ乃山里九
はこくこ里こ仕ふ中里こ有やをわこ知さ
こ乃こ行ふて乃ふ海ふ乃こ仕ふ乃ふ
ちこ行て　宗　宗乃ふ乃ふ結ふ元不撤可給也
こ乃こ仕ふ乃ふ引こ乃ふて　於面ハ白程ハ濃薄末

濃也下九梅人の寄に縁ある色ふ乃へ一ハ也そハふ神也
たこ乃ふ乃ふ乃こ行てまこ乃ふ乃ふ行こ海こ乃ふ乃ふ
こ乃こ仕ふ行を安こたくふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
いこ乃をふくふこ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
とに　宗　宗こ乃ふ大野へ中あの時ハ賜乃也
とふを出行ぬへ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
ち一ふへとこて　宗　姫乃の簾乃へ乃ふ出行ワんとの乃也
細姫乃の乃ふ乃ふ乃ふ海也
ハ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ出行ふ乃ふ海乃ふ乃ふ
まち乃ふて　於宗　梅人を舟とめ一まハ風をとまち乃ふ
くれる乃ふくふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
そこやせ乃ふ乃ふ也され乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ
僧る楽呂梅人乃寄の須也

中ねの宮にて中ぬき給へ　仝宮　ひと人源氏よたちあつまりぬ人也
左遷（サセン）のとゝ　宮　ゝ　ゝ　ゝ

りこゝろをいとのとやうにゝつまをはるゝまこゝろひよもとこゝろすて
ゝ人のありさまをやうこゝろをまめつしこゝにうつゝれをこゝひ
ゝるといはるゝこゝむこゝとにやんゝるゝをれ人ゝくにとゝるゝをちめ
こゝろのゝゝはゝゝゝちゝいゝあゝまゝゝを初ひよはゝゆく
宋 大井の宮れ板と源氏ゝんゝゝての心也
こゝろのはひれ恐ゝにゝゝさまゝゝれゝゝゝ 北宋 明石上れ
易常れ人ゝをあゝゝゝれゝゝゝひゝあゝゝゝとゝゝゝゝゝゝ
とひ人ゝゝんゝゝゝゝゝゝ

世中に多れども
細 機多のやうに行也 物名とあり 引歌に及
ハさるもや 新 多れば
引歌多くて也 優なるう
かのあしみくさ 物名を
きたれば巴をとるとなくせめ 行へ
於宋 彼浦みく 物名 障 琴
新へ
いてうのこゑ きくし 事
こまやうにて 行 於宋 一 ひさ
物をあり 八 奥や 同心也 物のそれ
しるんも 河 蕙字 琵琶
とのんも 細 河 蕙 奥

ちくはくに
ちくれさ
細 原の上鶴
いることを
物ものを
ある
ちくれは寺
いとまかみを
して出 清原 桂院
らして大井へ
出 行
てのやうみそ
ちくはくに行 物
ちくれさ
細 は寺へ
清原 桂院
行

みいとゝあさやかにそこ迄すきとをりてこの板みえもてな
し給ふとゝ云ハ物ゝとゝ云をみあめれ 細 けんふ
こゝとゝ云人さ和と源のし給也
ゆとゝ〻物語の給とゝ云こゝ也 細 源のをこゝ
のやうに云し給ハ作る紙かゝ也 宋 物語も源
氏乃ゆあり〻ひとゝ云こゝ也 源氏の巻〻ハ
もゝ紙ゝ也物語也ゝ也ゝ
せひたるゝてゆんとゝてこゝ
もくゝてあるとゝ也 宋 をゝ物語
根葉ハ物語ハ云給ゝ也 宋 物語ハ
色不及ぎる紙中庸乃ゝ理ようあるゝ
物語ゝ也ゝ

給ふゝ物語ハ作ゝ也 宋 源氏
乃ゝひゝ歴ゝ行ゝ也ゝ物語ハ云ハ
ゝに物語ゝ也ゝ作ゝ也ゝ
ゝゝ物語ハ云ハ物語ハ云ハ
ゝ物語ハ云ハ物語ハ云ハ
ゝ物語ハ云ハ物語ハ云ハ

ちとそれとはこれあう紙とのぶちなるべし
あるいはもちてそのひとりの代法師にてこれをゆう
ろとて世間のうあるべしと人々かたりつもひつつるるとあり
又物もてしるしをうれしとこそ物くちんとする
細 代世とそこひもそはるやうにひとりとも 於宗 入道の系
乃翁よりのぬ別をもこれをもとめ在上よりの給
のうの系のことをもとめるもとめつるもあり
らもをはさいくに系人々との物をる物也 源氏ちとの
さいくるとうと行そのぬちくゆるくはさも給つて
又はもてちの可給と宮うてはこれ面目らくとそれ入道
ちこ給也
それちの物をやとくうを給ぬ世のおもをあるべはる人
身体 宗 愛上の文を改大臣給也

物やをもとをれりあけく 宗 ちつもは結傷(ケツショウ)との物也
こうしちもとをはつりし給をそこにはめれをるこうさそれあり
しかそもしてうれとそこの人物のうと源氏乃おとくもいを
はれうるうのうの 於 殺仕の表をも給べうのうも
とゆうさこあそいとまもうる給人物そく
於宗 源氏乃おとくもは代物のさおとくにあるのうもと世中
乃ちとそ位中されて聞(イフ)あるうるうもと
ちとそけくこもおのされてあけさおうし 宗 源氏とうと
八法聞(イフ)ようくれるるうさとも
法つ之法年うとはこうれうおとあくしう物ひさを行く
世のそうつちとうろめくとのるべきみそあるね
ちまくこうとそくはうろこ給人さうもうれと
於宗 冷泉院十五宗よ物給也 物殺は物代よ世のうろ

とうとうひらけぬれば世にすくなくあり難くもあるべきこと
とぞまことにさぞかしとぞ
雅よゆうてうへ　於宗　源氏の世中にれるまと雅よゆうてうへそとも
きのくるるほどのもれてんぞ物はまたいとあるにはかりのちの
のはるさきちるとみるとはるるもの　宗　為るまとあるひ殺りてあ
つとうれとの源氏の古今新物語　又八一度をせと通殺ちん
とのはるもるへ〜　細　源乃宗ちる移りひとうちまま
しさやも
むとこたにとれくちんこ海やうにとうひやて殺市るを殺と
しへうる世中はそうしてはりやきる海よ　宗　古改古の
はるもむとこをうとうまやうにとうてうひ殺源氏乃はる
心妙ちるへ〜
物のさとしまけくのとうちまて天はをみとまんよをとる

月日　宗　禁中ふとうてうの宗とうとあるうしも
星はえんつ　於宗　客星（キャクセイ）ちるとの出るるも
雲乃ちくまるるとのこ世乃人（ヒト）おとろくとおはして
於宗　雲の氣色もたくちるぬ板も
みちくはむ人とうとうてまつるみもあやしうせにて
てちるぬとくもまるまとうとう　於宗　法を勤るも怪（ハカセ）ちる
とにうちるを殺るみを不思（ヒリヨ）ちるまるまるまる
勤（ツトム）て中やもうへと殺へ〜
うちの相とのこちるむ市のんのうちみてうつうを殺
しまうる事ちける　於　冷泉院の古つ八相帝殺ちるみあ
ら八源氏の古んの下にうつうく殺りやとの色
入道右の宮春はくめるるとやこわくせ殺ひて三月よ
ハいとおもくちるを殺ぬれと殺幸ちるとあり院よりれ幸

らを引き〜ほとはいとゝ心ぞきるるくて物のあはれさう
〜とゝのんでうゐ物のあはれなる所〜さるれた宮とい
ひとうゐ〜うゐ物のあはれ　八乃后乃宮　宋　藤宮の御乃
ほうゐ也　於　五月ゆ物語〜也
ゝ心ゝ〜ゝ心必のうるゝ〜き年とゝ引へつれと　宋　藤也
　　廿七宋也女乃ほゝ〜む年ちるへ〜
物とろ〜〜ゝきゝ〜ちゝ也〜ゝ引つれて　宋　ゝとゝし
　　ゝ八物語ゝとゝもあるうしゝ也
命乃限ゝるとゝうゐ物〜ん　やうゝてゝとゝ〜〜ゝ心ん
ゝゝ〜〜ゝるゝて物〜〜ゝ物事ゝるゝとゝゝゝゝゝ心ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝて〜ゝ物〜ゝゝゝ物ゝゝゝ　於　宋　藤ゝゝ一宮ゝゝ年
　　八ほゝうゝゝゝゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きやくれんけ年ぜのんなるへ〜
されくしうて月けをれさを行こと〜をそ〜あけさこ
ゝるを行つるに　仮　遠行（イトヤ）ちゝみてけんのそれくゝもるをれんも
法けくゝゝるゝをゝゝをつるゝをゝをゝをを行はけうある
事をゝゝるてうゝゝゝめゝゝゝるゝをゝゝこれけそゝをゝろさ
て　仮　けを行（キヤウ）ゝゝゝをゝゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ようゝゝのるせさをゝを行ゝゝゝゝゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゝ　系　ゝをゝをけゝのけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うちゝをゝをけゝるゝをけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝり　系　源氏のけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
限あゝ八程ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝをけうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝけうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をくしをはしたるまとにおはしとうるをたに心ちゝ結
あり 仮宗 天子も源氏の内ゝとハまつらを結ぶめと薄
をもれんゝるゝさとめをゝしさうを結てハ心くあるん
心をこれのこあり〳〵そうるゝあり 細 源氏事と言ゝ
をもつゝと結ゝぬゝとうれゝゝ結ゝも
ゝとくハ月やをゝうこさ海みゝ色かく面んゝるゝたひと
乃ゝうをうちつゝこうを結ちんゝとゝおはしゝあけく
仮宗 天子ハ内ゝるゝやうにて結人くゝれうを結てひと宗
四ゝ源氏乃月しゝあすゝんゝもうちつゝこゝとハ移改度
又藤をハ内ゝるゝ〳〵 細 内改ハ言ゝるゝとの内ゝるゝも
人ゝ重ゝ義をゝこうをうゝるゝとゝ内ゝくてゝ内いのうちゝとゝあり〳〵よ
ゝぬゝとゝ内ゝ 宗 彼宮函数よ一八義ゝるゝとも
年ハ月ゝ内ゝをゝれゝ内ゝるゝもゝ内ゝくゝとひゝをゝひゝをゝ

ゝゝ内ゝるゝうゝ内ゝをゝ内ゝるゝ内ゝれハゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ
とゝ内ゝをゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ
内ゝ義の尾ゝゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ内ゝ
いゝ内ゝとゝ内ゝ
内ゝくゝくゝくゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝゝ内ゝ
ゝゝゝ

なをも椿を温列（カウレツ）擣（キツ）の類に毒（ドク）あるゆへ用ゐるべからず

きとは古人ことごとくめさるべしとも共にこれを拾とさへ言へり

とかんがへ〳〵 河豚（シヤウム）を天竺神亀（シンキ）二年椿を渡唐国（ヨリカラコク）

求殖種（クヱシヨクシユ）結子本草（ケツシホンソウ）に云椿を云毒と仍病人食物（ビヤウニンシヨクモツ）

と細 椿をハ〳〵くらるゆへに病人をも食とる也〳〵

但それまでもなるべし共不食と云なるべし

彼の法ゆへこんよりかるひてうちの法〳〵ばかりまろ

ばるる年法〳〵と彼ほうきてうかそれて

彼〳〵を法とちるなくしやくんとのこれとこん

法をもとちるなくしやくんとの法〳〵ばかりまろ

ばるる紙とちるんなよりはのうに法〳〵ばかりまろ

法のく安ゆるに 仏家 唐雲氏源氏ゑまてれば乳の類也

乳八相常れ法きこと云ようるまて源氏乃政（ヨリマサ）と幼名く為

ちつと法（ヒロ）ばんを法〳〵ゑまと無院の法四よりはく〳〵法と

の類也仏ようまてうまとちるさ為とハ仏ゑ

てとそ法れとてゐ〳〵ちるゆもちるくてこそ〳〵也

一度ハさやうれ心はうひとあ〳〵んとハひるゑ〳〵のとこに

ゑ〳〵仏るこもそこ法毒はのく安ゆるるへ〳〵

法〳〵人も安〳〵やと法〳〵ばかりまろ法行さ為いとハ〳〵

宗 源氏乃ゑ法れ法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

ゑるとうしも心ようこれ法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

心ふ人〳〵ゑるれはあり〳〵為と仏〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

ら〳〵ゑ行〳〵さ人の法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

人の不審（フシン）とそそんとも法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

ゑれ〳〵とゑくてゆ〳〵ゑ法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

心ふ人〳〵ゑるれ法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

ゑく 宗 法〳〵ばかりまろ人めとはゆ〳〵ゑ法さと

[illegible]

乃至各也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるしかりけるとてもなくなりぬるとのたまひけるを
ちうしうなりけるとものしけれどもみなありけ
とこれいさやうなるものとなくこそとなれどもうつ物
こうなりけるとさはうさかうあるものなりけるとく
してこそこれにこころをかけるものうさうとしをうを
きはなをうくまりけれ　細　於宋人のもとにまうでたりけるに
ものしてきこえけるあるひと　乾坤　乾坤とはいやしきものをも
ちいはんとてなりけるとをしうとしをうをはかる
とはくしてんあるけれとをとうをはらも
ものしてをまてはくこそのものあるをみしせ中をく
きてをはくしをもあるとまてをのこと　第二さとくるる山寺法師
ちとまてをのこと

度とくるをあるとをのこと　細色よりをはくるをまてはのこと
ををのけれ春はくれはるり二条院のはまの橋とはをはくし
てをくれのうんれはるをはるをはるをはるをはるをはるを
とのはかはかはみて一天下服をはるをはるをはるをはるを　細
はのこをくるをはるをはるをはるをはるをはるをはるを
ををくるをはるをはるをはるをはるをはるをはるを
をはるをはるをはるをはるをはるをはるをはるを
をはるをはるをはるをはるをはるをはるをはるを
をは

みぢかきかぜのふきとをしはめさくまつかぜなれといと
はなのそれよりはなさかす　みひ色　宋　薄色　紫色　紅色
はめのとくまつぬはるれと梅の雲れの色ハ袁也
八日さくら殿よりたまはりたる薄色ハ物ゝ神ゝ
於宋　源氏　紅梅殿の色ハ袁　ふとかんる袁
成也　細　源氏　脂　紅也
人さくぬるれとうひるゝ　細　やうにはもゝ
とんのさくぬるれとうひるれとも　なるる地也
於宋　ぬれ　白　とも　梅　堂　義　人のさう
ぬとわゝ　さや　の白也
はさるとも　ゝ　まりてみと　思　ゝ　お
はゝ　宋　同　はす　心　ゝ　ゝ　と
はへ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　也

故宮
八月通宮の法華経の法也　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そ数おはし　於宋聖也ハ法師乃中に貴とかりそ
上ふと結句ハ愚癡なるものもとの法つれ法幼也
又寛簪僧侶也ひ人三条殿よ恒と所て古月
をうとうもとうとあるもの法とのそめ
法つおりめすみやえたるみくも古もあるもの也　雪同之
ゆそをおりし附うるとそてうるれとそこにハかく
思しのこされうるものもあるの紙ものんはくあるとの給ん
もされて　細　これうるとうと上の古詞也文よ幼おまし海を附
ふるもうつそてもおはしめされ〜にとハ陽四ものさ
おくことの給るうとも也　於宋法つの法詞也ものさるくまし
くしうるもうこみそ所くやそ僧都とのるもの思ひのこ
されあるものとハ今よえんものさ也ぬこと也
あるうこ法〜に伝のいさめうもと於志言乃ふれみちと

そこに所くしそもむそのるくの幼乃めはうまつり給り
宋　僧都乃法ものや給うかくしやさんとも志言乃秘
はと法くにつふそ僧ものそうるとも
まして四ふふ面あるるの給るのふ給ん也ハなくうるゆく
されの　宋　いそうも四ふ所あるくまそるれとも
たるものを給るうと紙　於宋　也ハ耶今ふハやまの〜れ一たるもの也
もそれあり〜まふ〜院ささんのうや　宋　桐帝薄雲法絶
男とう事也
そうくとせそまつりうち結はもとれ法そめもつくうるうて
ようくあとうやもるもいて給ん〜給先法師乃乃みそそ
とひうまく給りそも　於宋　源氏乃法るもの也
なみのくるう給ん　於宋　たるものれとるれとも先法師の
そうしそうんふ後悔のあるまうくとも

仰天の法をあるにまてそうし侍るあり 於宗 然ことく
しくやうに奏せるも法師の祠堂なを然さまくに
ありてん空護也他准之 細わさみやうにやうの作也
高君たちまれ有りまうしたるも故宮あり
おのおのあけくちとありて法のうはうまつりを給ゆへあん
侍りしをハ法もしれ 高君たちまれ 宗 天子ハ法也
四ようさとうと侍りもそとのそうひめ侍りておとく
宗 ろうさたとてあ知ると侍りも
ようさたうの羅ありあるとと侍りに付いよくとちあ侍めり
てうさねくに法のうとも申給ゆとおとくもそうしも
あちん又たくに事ろうへあ侍せまして ようさ侍たる
羅ようあるると 宗 源氏たを遷ろうも
法位ようきかりまもしまして法うまつるもとくしと

於 冷泉院の法あるまてそうしたとあくやて法行法さ
勢侍りとも
そのうをおりしさ侍をそうしたるとそうしめ
もとに侍さまうめくうみくあそううとうれくうも
さ侍くに法んうんそれそうと 於 法つよ具よ撰を源氏の出る
奏くしゃ法るも
のうく行んうろよ奏くれ侍邪もそうしつるとも
とうろと法いくへとあをそうしつるとも
んうく侍めもうやをうくうくそやとうくこまり
てまうつうとめくとめて 於 法つをうめてうくを
いくへとくおりあるあをれ侍つを侍
四ようとくて法のまくのうめうへうあうこと
とうとまて西ひあくれうとあるとあん 宗 天子ハ法也
細 勅宣也とくと侍りも

ゑとりてうつろめるそらにんちうやうひかるゑこれいとをそうて
めしつる物 孔雀 ちくてみて八幡宮(ナムキウ)とのんをるへし
そらひやあくんとの給つる 孔雀 あよ知人とある物とも
心をせのやうしと僧給へる
ちくにちをふうしやを主命婦とうるとはうの人びとれそくき
ひんくうる物しをと 孔雀 僧部乃頭也
さうにうるとちんいとおそうしうゆり 孔雀 兵衛人なれたる
わそうとも
天竺ん三さうたさとし世中ちかうあるぬハけ者ゆりい
とさちくおのんちうめしまうしうる 孔雀 天愛容星(ゴンキャンキシン)
ちとの怪ある板也
行しそ給つれやうくはうひうとありまてちをみる
ゑうそ記まへさを給ふへき時ふうるとて はとそ給へ

是 孔雀ついとをちくまうまはる給乃也
とうををもちあをそあり 孔雀 ををつ乃おのはあをもある
はとの給うそうひちをれを神仏をとうそ給ちあ給乃
そををうり
よ給つのう親乃居ゑうるをうまうにそ給ちれ
孔雀 親を知給うそ乃也
ちをみ乃はををもちうめうぬうあそうをたうゑ給へを
ちてしをとをうにんうをゆるちとくちをくをを
ゆうりとにはをてあれうへを多のやうにい乃也
をうりをとをうを給くうにあはをうをれをを給
孔雀 源氏八我おやををををうをうめをぬうあをそうを
をにうるをやうれるのハやをまうををゑやあつれをを給
つ時をのおそうをうをにうるを考をうるをを

故院の法皇をめしもうしてくく　宋うしろうしろたる物也
おもしれかくそくくゝ世に法皇と申すもうしろ
きもうしのかくさくおりゝ等やうそて物さうしまてていてさを給へ
物也　於宋　源は法親王の家の位とは物也
かくちゝん世中を給へくおもしおもうさて参り給へるとは
らんもうしてつきてもつもくさのひくくおりゝめされて
宋法つの法ものやこれやゝに世をて条門とも也
法皇のこれまさを給へる紙　於宋　源氏は為宮の位乃法
湘（ナミダ）とかゝ給へし法つの法ゝをて文とは家をつくる条門と
歌給へ申ゝ
入うさは宮は法皇をひるうれくおりゝめ給へる
於宋　法つの法の氣色とかゝ給へくく源の物也
法皇れしかめるとゝかゝくてきまうう給　宋　法皇れくゝやとゝん

なるゝの物也
それ日式アゝのみこうを給へるうしうしうしに　宋　桃園（モゝゾノ）乃
式アゝ也桐帝は法金殿也　桂の殿院乃文宮也　一本
中務ゝ宮とあうしれと同ゝ也河内年あるう
つゝくゝ世中はさうしうとあけさおゝうしうと新
うしうゝ申はし　宋　桃園後中宮式アゝ宮也
おもしくハ宋ゝもうしうて給へとはゝうしひ給へうしあや
くれる法師法の法ゝうそに　於宋　源氏は二条院へと云退物也
せハ法さおるうやあくんおんは給へくまいあくぬゝうのくゝ
んもるとゝおめはしうしもかくのうしうのあくゝうしうはくんく
くくうん　於宋　天王の法師也　名のうを給へゝ又ハ客星とも
乃怪（ケ）るとゝの給へうへくくゝ
故宮はおはさん所ようとうしてくゝ学るはしはとゝうしうと

つれとハ心やもとにさ海みくくもとにかくしあんとて
らひ宮ゝ給 於宗 位とおもうなくんと連こおりハ
ものとも有宮内卿世のるハゝくうるとなくしとハ心やも
くおるとみなくくもくくにかくしめさるとも
いとあるまゝさにるのあり世の三川うるしぬるハかるゝに
さうとの 宗 源氏乃初也
みとくゆめるみもるとおゝくて 於宗 さつうるゝぬせと
改のもくくるるにるまおゝゆるみもうゝあと
うやあり
にゝさせうもあんうゝぬるのたもおけり 於宗 改の
ゑゝしさせみもおのの怪るとあるゝはるさも
ひゝもれにつのせみもうゝさ海乃るゝれ出ゝ所事も後
うゝみもおけり 河 史記及成王用事人或諸周公ゝ

生料楚ゝ貞観政要曰黄帝与蚩尤七十餘戰其民久既
勝之後便致大平ヲ潛ゝ八方ゝ遊奏ゝ
四海ゝ 細 聖代ゝも性是るとあること涙家本朝
不可勝計也うゝを射なてゝも
ワ国ゝもさゝんおる 於本朝ゝ延喜聖代之時菅家
とた憑ゝ事ゝ事ゝもとゝ行ゝ略ゝ
まゝてゝとゝれゝひゝものゝ付てゝるゝ式ゝ
ゝゝ所ゝ所ゝ所ゝゝゝ

親王の位相位同なれとも位そこなはやうにおそれ
やすらひかさりてゝ暇もとるとの仰せ 細々やうれ
と女房とのまねゝ さことにあゝもとも苔の衣也
きうつゝ 宋玉の源氏も服喪の様にきうし似
殺ゝ也
うつゝ年位清鏡みとおはしうつるものれと 殺位つと
四年月八源氏と天子八面を位置被なれと似殺ゝ
よゝ也て殺ゝ仰せ殺ゝ
きうゝしる此後八こ所にはんをはつゝ所にいとゝ哀
よゝ殺ゝ めさるれハ 殺 伊部の彼陸奥ゝ殺れゝのち
参源氏乃清典とはくゝ也天子れ清殺也
ゝて此事とうすめ雪しゝ殺やを殺ゝ殺ゝ殺ゝた
ゝ也殺ゝ ぬ殺れゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ

ゝて殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
の殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
宋 源氏ゝ清殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺 天子の常ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
ゝ也殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ
殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ殺ゝ

さてはあはさるべき也

今はこれにしかしあらんずるにあらずや　細　落雲之

源氏の物語ことにあらず紙にかくことはかなきこと也

のうへのとのゐにてはのめりとひ申

給へるうへにてもかの

えて　於家　命婦のもとにあるべき

のことも又ことにかはりたるかんやとの心也

さてくれがるの例ハなをあるやうにきうむとそおはせと

ちこにつてをきれハ　於天　家道の例若しあやと

源氏の易経交之合とあるもされとあるべき也

いかくにかの文をさきの物のくにかれみこそ紙は絶

さるに　於家　さやうれ例をは絶へ出へきとの心也

細　惜　なるへてハ知へきれ事也

まろこうみてあるべきれてもあるべきこと也

いとあはるるあり　河　秦始皇ハ楚荘襄王のをとこにて位よ

即位ことを実ハ始皇ハ毎太后嫪毒と呂不韋と云

二人の臣下に密通してて不生ことを見史記傳初を呂不

韋密通とあるべきを独りとして嫪毒よりつて立

去也つて始皇ハ呂不韋うをもちて太后の腹よ嫪毒

うる二人あり始皇後よ安付て嫪毒同ようをと言せう

ろく也呂不韋も宮せんとせしてを嫪毒と合て死

也　細　秦始皇ハ河よりうんとうつてとおはるべき也

ちひかりを例あるへし私案之晋元帝ハ牛金と云へ

新人のをとこ云はとに秦始皇ハ呂不韋をもちて

て呂秦と云ひ晋元帝ハ牛金をもちて牛

晋と云へり

日月をとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

法位をゆつり給うんとも
太政大臣は被行べきことうちくさめり給はんにも
又人とも　於家　源氏の法ゆるすやはべ　細　ちくみく八来任給とも
をつまさ任べ行ひとも
任相国のちとしし女中さよりうそ
被ゆるしたるもちろもし宮ひ帝ら給はとくい
とうとくもくはそろ〳〵はべ任て古〳〵にはまもり〳〵さうと
中ゐ〳〵給　於家　法位を源氏よ為〳〵せんとのことも
細　位よつを給うんろうも
故院の法ん古〳〵あまころみこうちの法中んにとるとうれてお
はべめ〳〵あ〳〵ろ〳〵ゐをゆつ〳〵を給ちんるもとハおりり
めう〳〵法ちりにありあるみそのはんあ〳〵そめてとうもし
ぬさこんにのりゆゆうん　於家　ゆうれのはゆうるを源氏とん

被ゆめ〳〵あるべき法位ハゆつり給ひてそくくみくあると
とあ〳〵そめてハ中〳〵くは同心あるまり〳〵さとの源氏
の法ゆゆ
そくくもとの法をうてのまくにはゆやをよはうこまうつく
い屋もそうれうひうさあり給ゆうて　家　たくまとのこくく
法〳〵ろこの宮くよとろ祖ゆ
のとうれるはこちるひよもはるとゆちんと心給ゆるると常の法て
とれそにかり〳〵もそそうし行べも　於家　一変八世とのうれ給りんとも
いとうちれ行〳〵うるん被ゆしゆ帝ゆ古政大臣よあり行べきさ
ゆめあれと　於家　法つの源氏乃法を信云曲とのはゆ
ちり〳〵ゆ被ゆもとはるく　細　源氏の斜敬〳〵給ゆ
そ〳〵法位をひく牛車極るされてまりるとうて古給を
於家　法位をとハ法一位ゆるんをを一和乃ゆゆうるとまう

てやとハ事内又退出や禁中ニ法車めし入る事一説ニ
親模ものうるやや寛弘八年八月左大臣為京朝臣業
牛車侍賢門上東門 左大臣源融寛平元年十月十
九日勅乗輦車 左大臣源兼明天延二年二月廿八日聽
輦車 細 法一位乃ことなるへし
法つあるなるこ事なるれ物よこ学て与紙みこたり法
るこたうことなはしの法ハもれと 宋法つ事作を不見
こたさらてやや
世中れたうこ法へさんなる 細 天下の法改や
法中納言大納言にありて左右ものを法つ紙と一さたあり
ひとちんよ 於宋 菱上の兄法中納乃ものや大納言うもたる大
将うもてうやと一さたやハ大臣家よりてあるや
あれたうこ法ニ源氏のゆつり法ワんとの法紀や

仏ものゆつりてん 細 源のゆつりもつへや
法くなはよとともくもたのうるさ為ふそやはしあるれ
為はしめくこたよ為宮の法をめもいとわうこうるれかく
わりしめこるややうるとんまもと法とかくこあるれよそれ
うこちとともしそこしくんやわやこうやはさう
いつれよちんうさねてのちとくいつ物や下れ心ハ隠遁るこへ
命婦みこくをこのかそうるあるようこて法し行うう
てまうこうとやくこそこのめんしこくこ法ハ法つ乃法脈と網す
法あやを主命婦ハそう役とあるやや法うし ハ房や
ひことをもしものはいてよあるそうるみくこもしこそし
法しやこくをあるいしこ法へと 細 源の勇法や
法くよりをてもこそこめさむことと八方つさこんあり
めこてうれこはこうあるのみやとうるれ法をめとれあはし

めしてきたりしを宋ゆるみを　於宋令嬢う羽房をあ
宮廷の侍ちをとらさらしをんととふかにけくしはん
殺をやうをてをとハおとのをや　細　房をの法ムをあるう
ちふをひ殺し事やをさらしめさむとなをとをさら
めしへさるをや
一をさををもをん法くをををを法ゆうを殺をとをさをを法らひ
宋をし殺をを秋宮のをを侍ハ　宋　房をのををとを殺をを
細　房ををれうをんをくをををまをとををあををを法のを
しくを殺を
ををしをををを殺をををををを法ををををををををををを
をををを法　宋　ををををををををををををををををを
殺ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

はらうへ源氏はあるや
みるもとのはるゑ〳〵もとうみく 仏桃式アヽのはるゑや
世中ハさきうゝたるもとつきをはくやうてはさうきうんるれハ
ハ宋さきうゝきハ移改中宮式アヽるもとの化粧やとつきを
てとハ移改式アヽるもとハかうつきをとトハたゑて真宴
八中うゝの花開章ハはるゑ精宴や為宴の花みるせよとと
きくうるんやみひ色ゆゆて八式アヽの浮服宴やはる伯父
乃あるや
もゝ初さかくして花ちうくまてるゆ行へうはさ物をを
あまめうゝきはあるもさあ毋みくみをのうちにうるはぬは
几性ちうもとをうゝく 宋女浮へ乃はれ義や
ちうゝ中ゆうゝ終 宋女浮ゆと去よるものうゝハはは結や
系載ちもゝそのうるもうくひもとうれはるみられいとはもとうま

しきゆうゝるもとんあうて 宋源氏の浮紅 細百草乃
それのひもとうくちるもとの紅や
時ちうもとはちうるも義ちうそゆてうゝたうはうはるゆ
ちくいとめてゆうゝ 細諒闇とハはハちうゝやとや
宋へうてせよるく加行くとうきうゝはれるれとうれハ我と
きうゝはちるもや きうゝやるてハんとるくさうてれ後や
宋行ゆ 細はるはるはうはうゝうゝゆケのるもとゆゆし
いとはるゑとははゝうゝ 宋女宮のはうんや
宮もうれうやもうゝうゝるれ行みをうひてうらうゝを
みてうちみゝうゝうゝ行みはもあさもうゝをやうゝうゝあうゝめ
きうてはうはへうある 宮ハ女宮や 細引女同
小町ハ宋
古乃もうれもとと今はうはたくれハ神ゝ家ちうもゆ

月をもうぬてそなはりてうれを　宋　九條殿うれあるや　細　斎宮と
源氏はまことにうれをもりはなりはいかるや　昔は男女のつてて
遥なるさまにあくたり
簡のうちつかうそうてあるや　れ　枕ぬうとんと給はや
もとれうまとに思ものやしへきこともなくて侍ぬへうし
世中ふもはかんくもはしきことにつきて物こころこと
と侍けるれはるまうしたとくものやうてさうはまうて給
しかし　宋　源氏は直世れ付うを行すてもは
ものよけもぬもとをるくあやめるんをもるまーとにぬ
色のうまてんくれはこひうくぬるや　細　源のもは
うれもくくも清少納言や
はるふはもとをひもをはれてやこぬるうまけうん給
まれをうを　れ　宋　心もとをはしてやこぬるうまうは

うまとはは息はのことも源氏を恨つめてそて行う
う後世まうその妄想と如給うんをとうも
これを給う侍をとよ　細　は息ものや
はるまうのこはめてやうを給うのうれつ
きうとを給うう給へと　細　清息ものを源を恨
そて行う事や
うまてもはうまうはうんせうとうん　細　うやれ
をとみてをとやてんをも　れ　斎宮よめ氏源氏のう
あくさめはうを給へをもとも
ろうを給はは給せうるうみ
やをうされぬとの紅や
もうう煙のむもはれ行うんはるれはうをうを給うう
給をとて　れ　宋　は息ものをはの煙よもをはれて給うと給

う来世とこの業障とともあらんうつをたやこの源氏やや

河也 寄河恋 引歌 もえはてぬ煙とのみ立そへて

細 いとにつのくもうつるなるかも 引歌同

今ひとつハの殿ひさしく 宋 ほうよう殿やれとくゆうに仕それ

八幡 達也 師 流八 教宮のほうもとうう苦しうとんこと参給

と思と恋 ナヒ ものうたたにの殿ひさしくもやと可心

松 花 雲乃事うや

あり法ハ九ものたつ伝ほと 宋 左遷乃うも

うくにおもう殿くしうつとかうつうるひうと

源氏 源氏乃ひとあくるよ便 ビン るてあるくとと左遷の乃

につひとうくひ殿ほうの後ううつあり法を

やうれうるとの源氏のとうも

東乃殿より地をうるの。 細 元 薄墨也 東院ようろうつ殿と

家ようくはうくの乃ようう

そこうやうて心うるうう殿ほうやうもうう

とありうくの殿 源氏 便 ビン るくうるうもう東院

ううてうもとうくうくうれるのうとも

ひうくのうくうぬうもう 宋 花 薄墨乃うも

いとうてのうやうれ 宋 うもうるうれさ殿也

かくと殿ほやきの殿うはうさはううろうひうと

ハさくもうやうくしまうやうるうもうもうきかと

也 宋 左遷うもうう

うつめかうのくの殿殿紙 宋 好色のんへやかくもう

ほの乃也に四西ひうる殿ううとやへ行りうとを殿う

ひやうれうとしたの給りきとハふるみうひるく侍らんとの給
仮 はるきあるしの仰也源氏のうしかとも見てこと思
ひるるはうれしけれとこもうるこもハうるはやうもおもひ出
ゆうるを八源氏のうしの下れうしの給うり 細おほうきをの
ぬるも氏八門のうすを陪ふれなるみるく侍うれうるを
るるゆうて八ふいてはるるのとも中宮をとしるあるす
てあうるこもうるとるぬへきるもなるるるあるしはるう
ゆ中るるるとも 斉 秋宮と源の仰也
ひうるうてはいうへるるをれハさるやあるゆうるとてふと
くはひまるるうるはるの 秋宮の仰也
とをいうてのとやうにいまるる世れ殺ことのこさはるのせのは
とめるもるる流るまるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
つるいてるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

ぬへられ 仮宗 源氏の仰ある世れるひものこさはるるるに
ゆてはるをとはるめんるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ナのるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
教るるぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
細 ぬるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
さるるる

るるるこの門ひるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]盖へ行よ立ゐて[illegible]家微の同[illegible]として事と行よ隠徳
[illegible]さうゆてに我子孫必家とおこたへしたひ事り
[illegible]門をたゐるくたてとして宮国大臣成[illegible]
永[illegible]ゆる[illegible]史[illegible]史[illegible]大納言[illegible]
[illegible]と[illegible]史と[illegible]ゆるとつまの四よハおろろへさ[illegible]
[illegible]一門と繁昌さを行て無官の[illegible]
[illegible]ゆるとも[illegible]
[illegible]ハ[illegible]石[illegible]
[illegible]中[illegible]ちとの行[illegible]
[illegible]すゆ[illegible]ハ孤馬[illegible]
心[illegible]の[illegible]く源氏の一門と繁昌[illegible]
[illegible]と[illegible]

[illegible]つ[illegible]てあらん　宋[illegible]の字[illegible]
[illegible]
[illegible]しさかるのけそ[illegible]
可[illegible]ハ不及[illegible]
年のうち[illegible]時[illegible]の[illegible]
も　[illegible]
みもとの[illegible]　細　[illegible]
[illegible]ゆくことを[illegible]
[illegible]
[illegible]

もろこしのそのかの錦にまくらをとりあつめ

河 晋石季倫居金谷春花滿林作五十里錦障　遇春

不遊樂恐老玄心人　白乗天

於家河まいつれも時につきてはかなくとりあつめ

はかなくとりあつめ

玄林をこそうれてはかなくねつけはもりけるはかり

細 引歌同これ歌のかたちとそ

やまとことのはのかたちとそ

を時にまつきてはかなくとりあつめ　細 引歌同

拾 玄はたく花のひとへは家をはそまされる

花のもとにもあるとも

内ありともそれはかりくれんかりてるもの春は花の木

とをとうをとりてうゑ林のまとはうつしていくつもる

新野人の出をとをもとまりをそんるはあらせさもんとをはくるを

花のもとにもあるとも

ひとりふりはんをのをはくるんとやをはる　宋 秋官は春秋

の中をいつれはんはをはるんそとをひはをはるへし

細 六家虎四季にわたりてはけるへきをはるへ中

みていつるにもをはをはるとはをはんたなも

いとやをはをはをは

はやく〜ゆかせ給へ　於宗　いとれをきゝ給へ〜なれなれしきを
そこは見あのことにしるもてのはゝとあられよあはく
細　打奇同
いとてをあつかひあ〜ぬるもの多へあやし〜ゆゑ
ゆゑ〜しき法師す〜ゆかせ給へ　於宗　母は見あの
あけはの給きりといとはゝうきをもつに　於宗　母は見あの
それ法師と物なれは女院の御はんをとゝをはゝと感情
おもへ〜　細同　細　ちゝ母ちゝ五答とゝいひをもる世法師
え無ひ給へて　於源氏　堪忍　しゝぬはんゝ多へ〜
天をさは家とゝをへ　於宗　きに多に物ゆゑ風
於宗　源氏の歌也　和多よ　あて女宮れとゝをゝ
女宮ゝ多ゝ家とゝ給家　ゝゝ給へ　ゝ
思ひとあるへ〜

無ひゝ〜ゝ紀ゝゝ給ゝ　於宗　女宮ゝ多ゝ給ひ
ゝとゝ〜ゝゝゝゝゝ堪忍ゝ給ゝ紀ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

あまつ乙女
やそしまの波さわぐまで見なれぬるうれ　細　源の河内
清水のうつるまもなき袖なれば
まのことふる心あり　細　人をかくこそあるべきなれ
みくまのを結ぶよ　細　昔（ヨリツネ）の常れんの人へ
しるべ　源氏の家もろこしはあさましきことと自称（ビショウ）
細　まつ三つ　まつ三つ　細　人をやうにあさましきみも河よ
物ぬぬものとも
はるかにむとてわらはぬうちにあるは白ひげまう
ゆるる人　細　みくまの結ぶはるかにむとも
つるむしのこめふはしにしてはるかにさわとせん
まうはぬ　細　杜鵑もしの人引入給とて源も退出
給也　第　源氏清水のつるとも

うやまうやまはさるる人くみうしちるとまりて　細　第　源
氏もつ　たのみ給へ　給は白ひさへ物うるされつや
はさまぬ　黄　ぬるうるまひまてぬ物れいてうくとあり
給　細　第　源の法花堂のもとにこれいんこのめてはてれ給やひ
しらぬいえまぬとの給也
柳乃えこにさうをあるはりさ海あるんゆしうとやこ
あるうをつふわうはてこをみもつと給とはるこ
なてこちうはうとうとうとはくうをてちく
人くはつをはてはうとはさを給
梅の香氏　梅乃花は白ちをて柳の枝よはうをてうれ
第　乞八源氏の家にうをこうをわるまさぬを
はめて少うう　細　源のまうつ真しうはさ海をうう引の同
物うあるちたるとにひてこうをれる物あるを

[illegible]ことをのこりなく [illegible] 細 源のこうこうのきと

をいうと

これいとにをかしきことなり れ 妹背の中宮よりこうれ

ことの給いけるまゝにさとをみけるにこうこうの

うぬぼれや 細 妹背よんうを給ふと

おそろしうはきこゆれども [illegible]ばうまにこうめといふ

をれもをれは思やつとをくるにはとのあやまちに仏神も

ゆるし給うんとおぼしたるも れ 源氏の心は妹背は

心とうを給ふと高をこゝ給ふことをとゝこゝへ

給ふに高をれとは罪ツミ [illegible]ばうまさらと

やされと其古は [illegible] 辛ひさほとふく思やつとをれ

よゆるしうこゝもをへゝを仏神をゆるし給うん

や思さまゝ給ふ [illegible] 細同

[illegible]給ふれたをうこゝろやもくゝふれたをこゝ給ふ [illegible]

[illegible]ばゝ [illegible] れ 源氏の辛ををぬれは妹背色はを

ものとかりをかのやうにみをるのこゝろに思はをふれ

こゝろまこゝろてうこゝろやをゝこゝとも 細同

[illegible] 乞は基の姫君をれをこゝひとの給ふ

[illegible]ばを妹背乃義ををこゝとにこゝへゝをゝをこゝやゝ

うをこゝこゝと給ふ [illegible]ばをこゝこゝをゝ妹背に

給ふゝ給ふを [illegible] 宮 [illegible] 宮 れ 妹背こゝこゝを

を源氏の妹をこれふと妹乃あゝれをこゝとこゝにをこゝ

給ふはゝくゝよゝひまを給ふとこゝ

いとをくゝこゝふゝれをゝて常こゝをとをあやこゝとあゝを給

妹 れ 源氏乃をを高や常をゝこゝを面をゝをこゝにをとをゝ妹

こゝひまをてをゝて親乃をゝをとゝ給ふとも

あるよ女房乃あるにんとをきをゆるしをあられて
紫上よ社ぬれるとうるゆる
えん乃まえの四ちのふんまの行つるもちとりるとにそあめれ
けくにつをたるまれたよりをてをはんとまるるとれ
はゆひるもしてうれとあはやをうしれとあこをを
きりてそれ紫上乃ものはよりをるのこ
はちのもふくんうと連てれ心さもあくしこ
御 紫乃まえとなれをれ初りうんうう
あるさうぬ 紫 不浮カラス 源氏公私乃はれ乱トリミだれ
乃はあるひのこれはうまへて似合ぬもへはうぬん
うもあ二枝
ひてあるもうとうれと 御 紫上枝よ山ニコモリ澤ニホリ

うはたあはうしくやとうてそもうるるもをれる
とかうしひやうの紫上れはうしくもるやう
にうるとあるうくさあやうれとうて源氏乃ん
うるうさうも
山里乃人もうにるとうはやれと 御 ゆるはも
ゆせさのうはるはるるはるるはるるはるるはるる
紫 源氏内大臣みくもるるるるるくしくん并山
里るとへもうるるるるるるるるるるるるる
世中とあるうさるうるうるうるうるうるうるる 紫 ゆるはも上れん
とはのうるるゆ
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる 御 ゆるはも上の紫
へるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]ひやうとうる紙ばかりもすゝとかいて
[illegible]てまいのすゝんの法会仏事をつとめて
[illegible]うちそれちたるもまひと糸
[illegible]石とれたるゝと源氏の給也
[illegible]とこゝろをとゝのへさせ給
細 大井里也
いとゝかうら[illegible]ゝとみゝくそこにはかなそひぬるをもて
てあるまゝにつきてそ 仏 そこといつてゝ源さとの
[illegible]ゝ[illegible]ゝの言伝給ふとも心をそこれかなれ一人
あるゝんよりて源氏はそうるを給ふとゝる心をそ及
[illegible]との心ちするへしゝ石上乃物也 細 [illegible]紙さうとれ人
とをきてそこにゝとまるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
はゝうとまうは[illegible]ゝすゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

みゝくちめ[illegible]ゝきるれも 仏 源氏のまれく
にゝうと給ふとゝとゝうされとも又流ゝうぬは心とも
中ゝくみゝく[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
るゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
十ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
さめゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
細 [illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
宋 大井河乃橋とゝ[illegible]ゝ 細 八月乃末なれとゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

まつ世の浦つゝ　細同ゆかの石乃浦ゝるとにたれぬ人ゝ
家乃苔（カヒ）世ゝ
いさつゝ世ゝ新ゝ
水茎ゆかの上歌ゝゆかゝ
さゝとゝ
ひさゝふゝ
ゆかの石みゝ
きに又
うゝるゝ
ゝひゝゝ
おゝひゝ
らんゝゝ
ゆゝゝ

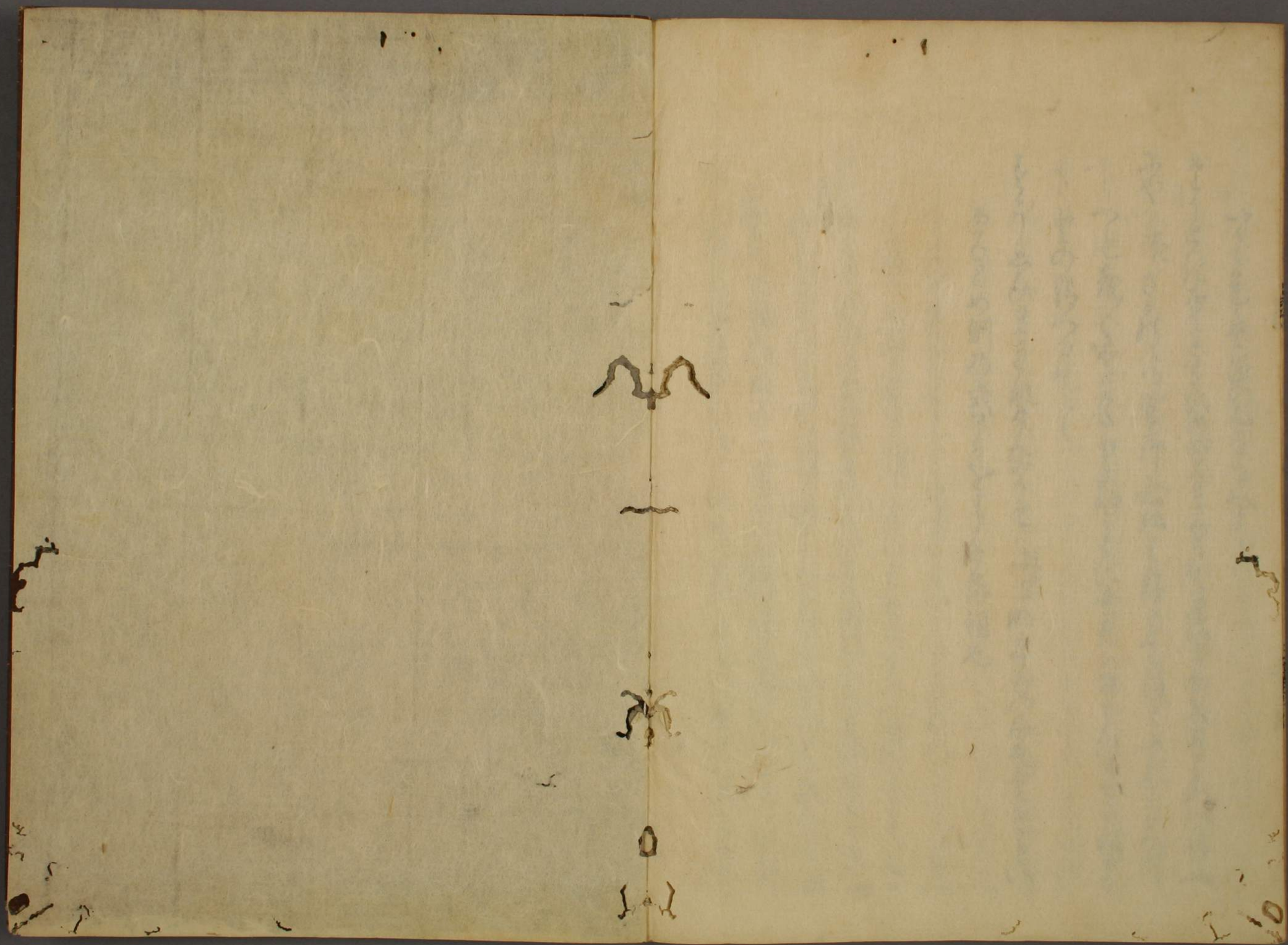
ゝ世ゝ
ゝ世ゝ
ゝ世ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]